

形成外科

(1) 2年間の初期研修で到達可能な臨床レベル

形成外科の基本的診察法、外傷治療における基本的手技（挫創や裂創の縫合法、創傷管理の基本、顔面骨骨折の診断や手術適応の判断など）、外来診療、入院管理および手術助手を行う。初期研修における当直業務でも頻度の高い外傷である、顔面外傷（軟部組織損傷や鼻骨、頬骨、上顎骨、眼窩骨などの骨折）の初期治療から手術まで通して経験することで、外傷への対応力を一段上げることが可能となる。

(2) 後期専攻医（専門医研修）へのつながり

当科は京都大学形成外科の専門医研修プログラム協力病院となっている。当院研修履修者が形成外科を希望される場合には京都大学医学部附属病院での研修を6カ月～12カ月履修した上で、当院での研修（1年～2年）が可能である。京都大学に近接した立地であるため、異動に伴う負担も最小限に留めて研修を継続することが可能である。現在常勤1名体制でありながら、日本形成外科学会教育関連施設の条件を満たす手術件数があり、後期専攻医が経験を積むには良い環境と言える。